

上 田 勉

今村復興大臣が辞任 大震災「東北で良かった」再び問題発言 事実上の更迭

「無責任すぎる」 被災者＝憤り・失望、避難区域の市長村長＝失望・あきれ

「【論 説】 今村復興相暴言 辞任して当然だ

「まだ東北の方で良かった」とは政治家として信じられない暴言だ。これが日本全国の被災地の復興を担う大臣の発言というからあきれてしまう。今村雅弘復興相が再び、暴言を発し、その責任を取って辞意を固めた。

当然だ。日本は首都圏だけで成り立っているのか。岩手、宮城、福島の東日本大震災の被災地ばかりでなく熊本、新潟といった多くの被災地、全国の地方の住民が今村復興相の発言にあぜんとしたのではないか。このような人物を復興相に充てた安倍晋三首相の責任も大きく問われる。怒りを禁じえない。

暴言は4月25日、東京都内で開かれた、自身が所属する自民党二階派のパーティで飛び出した。震災を巡り「まだ東北で、あっちの方だったから良かった。首都圏に近かったりすると莫大な、甚大な被害があった」と述べた。

今村復興相は震災でどれほどの尊い人命が失われ、東京電力福島第一原発事故でどれほどの福島県民が住みなれた街から避難せざるを得なかったのか、一政治家として、大臣として認識していなかったのか。今年3月11日時点で犠牲者は15,893人、行方不明者は2,553人、原発関連を含めた震災関連死は3,523人に及ぶ。避難する人は今なお全国で約12万3千人いる。数字を数字としてしか見ていなかったのだろう。被災地への向き合い方が根本的に間違っていたとしか思えない。

震災を巡る今村復興相の暴言は今回が初めてではない。今月4日には記者会見で、原発事故に伴う自主避難者の帰還について「本人の責任」と発言して大きな批判を浴びた。原発事故は事業者だけでなく国が国策として進めて来た結果として生じた。だからこそ、国は原発事故の被災地にさまざまな復興対策を講じてきた。この時は「感情的になった」と謝罪し、3日後の記者会見で発言を撤回した。「ふるさとを捨てるのは簡単」という発言もあった。そもそも復興相としてふさわしくないことを多くの国民が感じていた。

日本列島は地震、津波、台風などさまざまな自然災害に常に危険にさらされている。誰もが災害を身近に感じている。「東北の方で良かった」という発言は、そうした国民感情からも懸け離れている。中央集権的な臭いさえ感じる。政府・与党は復興相を軽く見ているのではないか。責任を担いうる実力ある後任でなければ被災地は納得しない。」

(佐久間 順 「福島民報」17年4月26日付け)

- ◆被災者にとっては、東北がこっち、中央（霞が関）はあっち
- ◆復興庁にとっては、中央（霞が関）がこっち、東北はあっち
- ◆後任に「原発もっと推進」「東電の責任免罪」を主張する吉野正芳氏＝衆院福島5区
- ◆復興相は、自民党議員の大臣待機組のポスト、任期は次の内閣改造まで、留任は無し

【復興庁はこっち（中央）にあって、あっち（東北）の被災者に寄り添えるのか】



【あっち（東北）の被災者の何人が、気軽にこっち（中央）の復興庁を訪れたのか】

